

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型対応の理念を独自の特性を活かし作成。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型対応の理念を作成し、共有を図ろうと努力している段階。理念を理解するに当たり、地域密着型の意味を職員全員がしっかり理解できていない為、地域密着型のサービスの意味から学んでいる。	地域密着型サービスを十分理解し、その上での理念を共有をしていくことで、本当の意味での理念の共有につなげていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		今後取り組んでいく予定。ホーム便りの作成や訪問しやすいホーム作りを考えていく予定中。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所への散歩時や買い物時に近隣住民に声をかけている。	より積極的な住民への働きかけをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、地域活動に参加できていることは少ない。行事があれば、時々、参加している。現在は区長と連絡を取り合っており、地域の情報をいただいている。	現在、交流の働きかけ中。気軽に立ち寄って頂けるよう、まずは、GHの見学に来ていただける機会づくりや、認知症を理解して頂ける機会づくりをしていきたい。そうして行く事で、住民の方々から、行事の参加への声がかかるようになるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			職員全員が地域密着型の理解をした上で、話し合っ行ってきたいと考えている。
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今まで職員は、自己評価・第三者評価の結果を見る機会が与えられていない状況にあった為、評価の意義が十分理解できていない状況にある。その為、管理者・ケアマネにて評価を基に1つずつ改善点に取り組み、その経過・意義を報告しながら、評価の意義を伝えている現状である。		自己評価項目について、ガイドラインに沿って詳しく説明し理解を深めて行く事を現在の目標としている。また、自己評価していく事で自分自身の振り返りをしていき、職員全員が同じ目標に向かってケアできることを目標としていきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の実績なし。		現在、運営推進会議開催への準備中。開催方法や開催場所について検討中。GHのことや認知症の事を知ってもらい、また、地域住民との交流を深めていく上で重要な会議と考えているため必ず開催したいと考えている。
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、施設長・ケアマネが市町との連絡や相談を行い、職員に報告している。困難事例があれば、福祉課に相談に行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員により権利擁護に対する知識の差があるが、具体的な学習会などは実施していない。個人的に外部の研修に出かけている。		GH内でも、継続的に勉強会をしていきたい。研修会などへの積極的参加を働きかけていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内での勉強会の実績あり。その都度、職員同士で虐待について話し合う機会もある。		GH内での定期的な虐待に対する勉強会の実施の継続、研修への参加を積極低に働きかけて行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時の説明は、施設長により実施されている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を設置し、苦情を表現できる所在を明らかにしている。また、苦情受付担当者は、苦情を言いやすい人材を選任している。</p>	<p>より不満や要望が言いやすい方法を常に検討していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回は、利用者の各担当者が近況報告と次月の月間計画を送付している。その他にも、利用者の状況に応じ、随時、電話や家族訪問時面談による報告や相談を行っている。</p>	<p>利用者の暮らしぶりがより具体的に分かるような方法を検討していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を設置し、苦情を表現できる所在を明らかに指定している。また、苦情受付担当者は、苦情を言いやすい人材を選任している。</p>	<p>より不満や要望が言いやすい方法を常に検討していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回のミーティング時に意見や提案を聞き、良い意見は出来るだけ実行できるようにしている。</p>	<p>家族との接点を少しでも多く持つため、利用者の誕生日の月に家族の方と外でお茶をしている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ミーティング時に勤務体制について話し合う機会を作っている。</p>	<p>利用者の状況や家族の状況に応じた柔軟な体制を常に考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新職員に対して、まず、利用者の全体像を十分に説明し、現在のケアの状況、注意点などのを送り、を十分行い、その後、ケアに入っている。		新職員に対して、利用者の説明の後、身体的ケアにはいるのではなく、十分なコミュニケーションを一定期間とった後に身体的ケアに携われるような仕組みにすることで、利用者の安心感を得て行きたい。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての育成計画はない。現在、順番に認知症実践者研修に参加している。		個人個人の状況に応じた職員教育計画を作り、実施していきたい。また、働きながらトレーニングしていける体制を具体的に作りたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH長は、同業者との交流の必要性を理解している。ケアマネ連絡会への入会や相互訪問の受け入れを実施している。研修会の積極的参加も促している。ホーム長自ら、他施設に行って交流している。		多可町にGH連絡会を発足して行く声かけをしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	前回、改善点として外部評価の改善点に休憩場所の確保を取り上げていたが、確保できておらず、事務所で記録を書きながらの休憩となっている。また、休憩時間の確保が曖昧であった為、業務の流れに休憩時間の確保時間を位置づけた。		ゆっくり休める休憩場所の確保。休憩時間の業務をしなくていい方法を具体的に考えて行きたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	色々な講習などへの積極的参加を勧めている。参考書等の購入もすすめている。		他施設へ出向き、勉強をする機会を持ってもらう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>急を要する、入所が多いため、利用前においての十分な聞き取りは出来ていない。利用開始時に聞く状況になっている。</p>	<p>今後、急な利用に際しても、ケアマネが、利用開始前からの利用者からの聞き取りを実施し、入所前から安心できる存在として関係を築いた上での入所に導いて行きたい。また、利用開始前に、利用者宅に訪問し、生活環境、なじみのもの等の把握に努めて行きたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>急を要する、入所が多いため、利用前においての十分な聞き取りは出来ていない。利用開始時に聞く状況になっている。</p>	<p>今後、急な利用に際しても、ケアマネが、利用開始前からの家族からの聞き取りを実施して行きたい。利用者と家族の思いを照合しつつ理解に勤めて行きたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>GH入所が本当に最適な方法なのか、在宅生活を維持していく方法は無いのか等を家族と話し合い、決めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、職員が積極的にコミュニケーションをとり、また、他利用者とのスムーズなコミュニケーションが出来るよう支援している。</p>	<p>利用前の段階から、職員が訪問したり、また、GHに招く機会を経てからの入所を目指して行きたい。入所に当たっては、家族の希望がほとんどで、本人の納得を得ていない状況のため、本人の納得をいただける工夫を考えて行きたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に、利用者に対し、教わり学ぶ姿勢を持ちながらケアを行っている。また、本人の感情と一緒に分かち合う努力をしている。</p>	<p>利用者の更なる理解を深め、心に寄り添うケアを行って行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は、常に利用者から、色々なことを学ばせていただいていることを伝えている。また、本人の感情の動きを家族に伝え、家族も含め、利用者の心を感じあう努力をしている。		家族との更なる関わりあいを持ち、利用者の心に家族と共に寄り添って行きたい。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が遠方のため、頼れないとあきらめず、時には、利用者のために時間を作れるような働きかけを行っている。		今後も職員が手を出しすぎている所は無いかを検討しながら、家族の援助を求め、利用者・家族の関係を継続していけるよう支援していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族より情報を集め、昔なじみの関係や場所などの把握に努めている。本人の行きつけの美容院・病院・喫茶店などを活用している。		地域住民とのかかわりを深め、利用者・家族以外からの情報を得ていける機会を増やして行きたい。また、地域の中でGHの存在を広め、より多くの人々が訪問できる環境づくりをして行きたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が干渉しすぎる事で支えあえるはずの状況をなくしてしまうことがあるため、見守りを重視し、利用者同士が支えあえる環境・状況づくりをしている。また、孤立してしまう利用者に対しては、和に入れる様、さりげないかかわりを持っている。		常に、その時その時の必要な関わりをを判断できるような職員の知識・技術の向上に努めて行きたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者に対しても、GH長より連絡をとり関係を維持している。		連絡を取り合う関係から、地域の一住民として訪問して頂ける様な環境づくりをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を利用しながら、本人の生活歴を把握しつつ、本人が求めるものを理解しようとしている。</p>	<p>今後も、些細な言動を見逃さず、職員全員で話し合って行きたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を一部利用しながら、可能な限り、本人の生きてこられた歩みとその時の感情と共に理解することに努めている。個人個人に担当を決め、より深く個人を知れるように工夫している。</p>	<p>ケアマネと担当者が協力し、利用者・家族と信頼関係を深め、より深い個人を知って行きたいと思う。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>口頭による具体性のない職員間の理解の為「なんとなくの把握」になっている。「なんとなくの把握」の為、総合的理解で無く、断片的な継続性の無いその日その日のケアになっている。</p>	<p>職員全員が部分的情報にとらわれず、一日の流れに沿って利用者を総合的に判断していける目を養うよう、日々職員間で話し合っている。また、総合的に判断していく意味の必要性を皆が理解できるよう学んでいく必要性もあり。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の生活歴や現在の思い・何気ない行動、家族の思い等から総合的に考慮し、職員間で話し合い、ケアプランに反映している。外部への働きかけが不十分な為、地域密着型サービスとしてのプランが不十分。</p>	<p>今後家族とのかかわりを深めていく方法を考えて行きたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的には、月1回のモニタリングにてケアプランの検討を行っている。また、必要時、ケアマネ、担当者、家族を交えて話し合い、ケアプランの変更・追加を行っている。また、Drとのサービス担当者会議の意見も反映している。</p>	<p>ケアプランに沿った記録が不十分な為、継続的に把握できていない現状もある。口頭による伝達ばかりではなく、記録から生かしていけるケアプランの見直しができるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関する勉強会を実施したが、現在の記録はケアプランに沿った記録ではなく、経過記録となっている。また、「した事」のみの記録で、ケアプランに反映していけない記録でない。		本人に寄り添った・ケアプランに沿った記録にすることでより良いケアにつながっていけるようにしたい。そのため、定期的な、職員全員での記録の見直しや勉強会を行って行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各家族の現状に合わせて支援を行っている。		地域密着だからこそ出来る事に着目していきたい。緊急時・個別性・地域への還元などチームで話し合いながら、今後、探して行きたいと思う。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム長により、警察・消防署に協力を依頼している。また区長を介して、地元の消防団にも声をかけている。教育機関としては、図書館・福祉高校と交流を持っている。		社協に、ボランティアの募集掲載を依頼している。今後、小・中学校、子育てグループに声をかけて行きたい。
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市委託の理美容の利用中。図書館での読み聞かせへの参加の承諾を得て、近々、参加予定。社協にて、様々な社会資源について教えてもらい、実行への計画。また、ケアマネ連絡会にて、他ケアマネジャーより、情報を教えてもらっている。		今後、情報を職員間で検討し、他サービスにつなげて行きたい。
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネが、地域包括支援センターへ相談をもちかけている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>現在、認知症に詳しい京谷医院において、数名受診されている。サービス担当者会議も行っている。</p>	<p>関係性を維持していき、利用者の生活の質の向上に努めていきたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>職員に看護師があり、日常的な健康管理を行っている。また、介護職員からの情報を基に様子を観察もしている。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、サマリーを作成し、利用者の理解を求めている。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>今後、重度化が予想される利用者に対しては、Dr・家族と今後の方向性などについて、その時その時話しあっている。ターミナルに関しては現在は受け入れていないが、入居中の利用者については、可能な限り、対応していけるように検討中。</p>	<p>重度化し、急変が予測される利用者の対応について、日々話し合っている。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在、このGHでの対応可能な人についての話し合いを常々、行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所時、サマリーを作成送付後、電話連絡にて利用者の理解を共有するように努めている。また、職員に記載に必要な内容を確認し、サマリーを作成している。</p>		<p>今後、センター方式の一部をサマリーに同封していきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会を開いたり、日々の話し合いの中で対人援助技術について皆で常に話し合う機会を持つようにしている。職員採用時、個人情報保護法に基づき、説明後、契約書として同意を得ている</p>		<p>今後も、常にプライバシーについて話し合う機会を定期的に持って行きたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>思いや希望を表せるようなゆったりした雰囲気作りを心がけるよう話しあっている。また、特に、遠慮をされる利用者については、ケアプランに取り上げている。</p>		<p>個々ではなく、職員が統一した環境作りを行っていくため、常に話しあって行きたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>無理じいをするのではなく、あくまでも本人の意思を尊重しつつ、ゆったりと支援している。その人のリズムに職員があわせると言う姿勢で取り組んでいる。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>数名に関しては、なじみの美容院の利用を継続できるように支援している。その他の利用者はGH内で委託の美容院に来てもらっている(2ヶ月に1回)。洋服選びなどは、本人に行ってもらっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>排泄の自立、介助による失禁回数の減少につながるよう、定期的に排泄の誘導時間の見直しを行って行きたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>できる限り本人の生活歴、意向を反映しながら、支援を続けて行きたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの必要性は理解している。現在、お金を2名の方に所持してもらっている。また、手元のない方については、GHでの買い物時に支払いをしてもらったりしている。		今後、少額でも使える機会を職員間で検討していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良いときは、外でお茶をしたり、畑の野菜を取りに行ったりしている。また、散歩をしながら、山菜を取りに行くこともある。草引き・洗濯干しなども日課として行われている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に2回は外出の日を決め、出かけている。また、誕生日には、本人の希望・家族の希望を取り入れた個別の対応を行っている。		利用者の意向・希望をより多く、取り入れていきたいと思っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族のことなど気にされたりする場合や本人の希望により、電話の支援を行っている。年末には家族宛に年賀状の作成などしている。		文字を書ける方も多いので、職員からの近況報告だけでなく、本人の手紙やはがきなども送付していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に来訪できるよう、出入りは自由になっている。家族においては、宿泊される方もある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、虐待の勉強会にて確認している。		今後も定期的に確認の場をもつ予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>今後、全職員がきっちり把握していけるよう、マニュアルを作って行きたい。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>今後、ヒヤリはっとの報告書記入を確実にし、事故検討会を行って行きたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>訓練として、定期的に行って行きたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>実際に災害に遭った時に、職員が冷静に行動できるよう定期的な訓練の実施をして行きたい。また、近隣住民への働きかけを行って行きたい。 (地元消防団に協力を依頼している)</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに対しては、家族と十分話し合い、本人の意向を優先しつつ、対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各勤務交代時の申し送り時に状態の報告を行い、確実に情報を共有できるようにしている。それにより、その後の継続した状態の観察につなげている。また、記録にも具体的に残していくようにしている。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表・内服確認表・受診連絡表により、確実に現在の内服に関して情報を共有している。また、変更薬について注意が必要な場合など、看護師より、具体的な観察項目など指示を伝えている。また、服薬に関しては3回の確認が行われている。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事摂取量・水分摂取量を把握・食事に食物繊維の食材を多く取り入れる・運動・腹部マッサージなど知識を理解した上で、その人にあった便秘の予防に努めている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の出来る力に合わせながら、口腔ケアを行っている。看護師による、口腔内のチェックが行われている。		職員全員が、もう一度口腔ケアの必要性から学び、全職員が統一した口腔ケアを行えるようにしていきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかな摂取量の把握をしている。また、バランスに関しても、食品交換表の利用をしている。水分摂取量については、一人ずつ目標摂取量について設定している。また、意思の指示が必要な人についてはDrに相談の上、水分量を決定している。		今後、市の栄養士や他施設の栄養士を活用していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアル作成し、説明している。		各季節に応じた、感染症に対する勉強会が必要と思われる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用する為、2～3日に1回程度の買い物にて食材を購入している。また、食堂の衛生管理については、一律に取り決めがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体が施設の形をしているため、建物の東側の入り口付近は、親しみやすく見えるよう、畑を作り、芝生を植えたりしている。また、玄関周りには、つつじを植えたりして、少しでも、家庭に近づける工夫をしている。		玄関周りの雰囲気をもっと家庭に近いものにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、季節を感じられるものをおき、ゆったり過ごせるよう工夫している。また、昔なじみのものを置き、落ち着ける空間にしている。		より、家庭に近づける空間作りを職員間で検討中。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東の非常口付近に応接セットを置き、個人で過ごせる場所を作った。また、和室でくつろげるようTVやお花を置き、上がりやすいように雰囲気作りをしている。		共用空間ではあるが、一人又は、気の合う人と過ごせる個別のスペースの確保を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>プラスチック製のケースが多いため、なじみの家具などの持ち込みを家族と相談したが、処分されている方が多い。GH側で、木目調の落ち着いた家具などを持ちこむことを検討中。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>常日、利用者の状態を確認しながら、状況に応じた環境の工夫を取り入れて行きたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>建物の東側を家庭的雰囲気を作っている為、その場所を今以上に、有効に活用していきたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さまと一緒に畑作りに取り組んでいる。野菜の収穫を行い、取れた野菜をその日の食卓で味わうことで季節感を感じていただき、話題が増していくことを目指している。
又、GH内に閉じこもらず、外出の機会がもてるよう、月の行事や地域の行事に参加している。
環境的に、自然が多く、水・空気が綺麗なところでゆったりと生活出来る土地柄です。